

# 農作物技術情報 第4号 水 稲

発行日 平成30年 6月 28日  
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部  
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます  
パソコン、携帯電話から「<http://i-agri.net/Index/gate002>」

- ◆ 6月25日までの気象経過：6月第3半旬～第4半旬にかけて、気温および日照時間は平年を下回り、低温寡少で経過しました。6月第5半旬は気温および日照時間も平年を上回りました。
- ◆ 水稲生育診断圃6月25日調査の結果：県全体の平均を見ると、草丈は平年よりやや短く（平年差-2.9cm）、茎数は平年よりやや少なくなっています（平年比94%）。葉数は平年並（平年差-0.2葉）であり、葉色も平年並（平年差-1.2ポイント）です。
- ◆ 圃場ごとの生育差が大きいようなのでしっかりと観察してください。目標茎数（20～30本/株程度）を確保した圃場では、速やかに中干しを行いましょう。
- ◆ 圃場をよく観察して、葉いもち発生に注意しまししょう。

## 1 生育概況

6月25日に各農業改良普及センターが実施した水稲の一斉生育調査の結果、県全体の平均をみると草丈35.8cmで平年よりやや短く（平年差-2.9cm）、茎数は401本/㎡で平年よりやや少ない（平年比94%）。葉数は8.1葉で平年並（平年差-0.2葉）、葉色も平年並（平年差-1.2ポイント）である。

表1 平成30年生育診断圃の地域別集計表（6月25日現在）各農業改良普及センター調べ

地帯名	草丈			茎数			葉数			葉色		
	本年 (cm)	平年 (cm)	平年差 (cm)	本年 (本/㎡)	平年 (本/㎡)	平年比 (%)	本年 (枚)	平年 (枚)	平年差 (枚)	本年	平年	平年差
北上川上流	34.4	36.8	-2.4	343	419	82%	8.0	8.0	0.0	39.5	40.3	-0.8
北上川下流	36.4	39.3	-2.9	419	427	98%	8.1	8.4	-0.3	38.9	40.2	-1.3
東 部	36.7	39.7	-3.0	459	462	99%	8.2	8.2	0.0	39.5	41.1	-1.6
北 部	35.0	39.0	-4.0	413	430	96%	8.0	8.0	0.0	37.0	39.0	-2.0
全 県	35.8	38.7	-2.9	401	426	94%	8.1	8.3	-0.2	39.0	40.2	-1.2

注1：平年値は原則として平成25年～29年までの5か年の平均値を用いた。

注2：表中の数値は端数処理を行っている。

## 2 6月下旬からの水管理

### (1) 気象予報

1か月予報（平成30年6月21日発表、仙台管区气象台）によると、暖かい空気に覆われやすく、向こう1か月の気温は高く、降水量および日照時間は平年並の見込みです。向こう1か月の平均気温は高い確率が60%、降水量は多い確率が40%、日照時間は平年より少ない確率が40%と予報されています。

平均気温について週別でみると、1週目は平年より高い確率が60%、2週目は高い確率が60%、3～4週目は平年並か平年より高い確率がともに40%です。

### (2) 中干し（幼穂形成期より前の時期：6月下旬～7月上旬）

目標となる茎数（株あたり概ね20～30本）に達したところでは中干しを行いましょう。茎数がまだ不足している圃場では、浅水管理を継続し、分げつの発生を促しまししょう。

(3) 前歴深水かんがい（幼穂形成期前後：出穂の約23日前）

前歴深水かんがいは、幼穂を保護して障害不稔を軽減できる技術です。1か月予報では、平均気温が平年並か高めに経過すると予測されておりますので、今のところ、注意および警戒態勢は不要と思われます。しかし、今後の予報に留意し、低温が予想される場合に深水管理できるように準備をしておきましょう。

(4) 深水かんがい（減数分裂期前後：出穂の約11日前）

幼穂形成期の深水管理後に低温が予想される場合は、10cm以上の水深を確保してください。17℃以下の低温が予測される場合は、15cm以上の深水としてください。平年並～高めの気温が予測されるときは間断灌水にします。

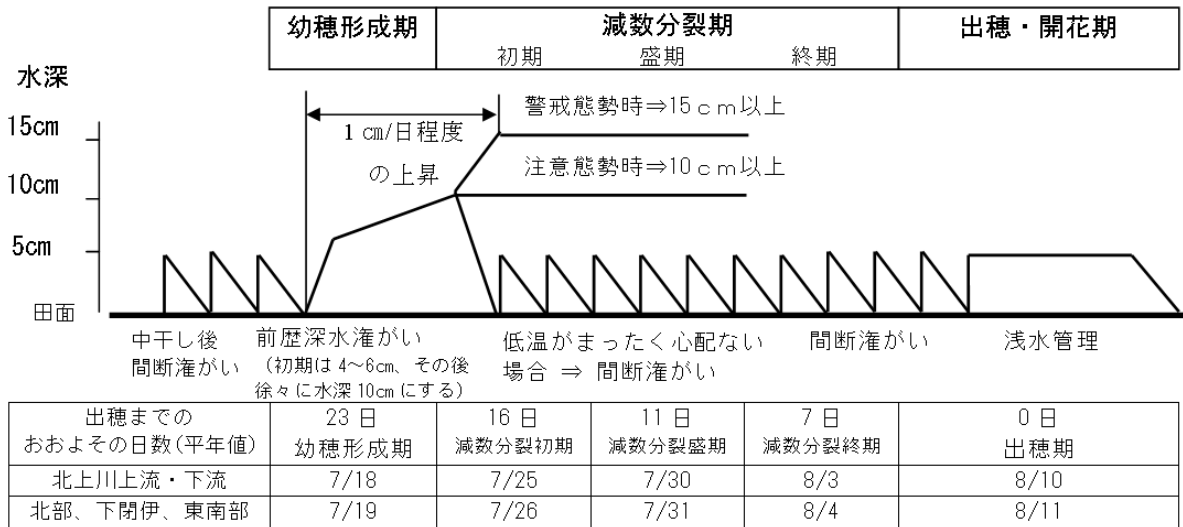


図1 中干し後の水管理の模式図

3 追肥

今後の追肥判断のためにも、葉色の変化に注意が必要です。良食味米生産の観点から、品種、気象・生育状況をみきわめて、適期に適量を施用しましょう。詳しくは各地域で発行される技術情報等を参考にしてください。

4 いもち病防除

(1) 葉いもち病の防除

いもち病は、気象条件により急激に広まるので、圃場の観察と早期防除を徹底してください。圃場をよく観察し、発生を確認したら、葉いもち予防剤（箱施用剤、水面・投げ込み施用剤）施用の有無にかかわらず、直ちに茎葉散布を実施しましょう。

(2) 穂いもち予防剤を散布する場合の留意点

- ア 水稻の生育状況に注意する（散布時期を逸しない）。
- イ 圃場をよく見回り、葉いもちが発生していたら直ちに茎葉散布してから粒剤施用する。

5 斑点米カメムシ類の防除対策

(1) 防除のポイント

病虫害防除所が実施した6月中旬の調査では、本年も畦畔や転作牧草のイネ科植物で斑点米カメムシ類が確認されています。斑点米カメムシ類の増殖源となる畦畔等のイネ科植物の管理を徹底してください。

なお、養蜂活動が行われている地域で殺虫剤を散布する計画がある場合は、養蜂家と協議の上、散布時期を事前に通知するなど、ミツバチへの危害防止に努めてください。

(2) 耕種的な防除対策

- ア 畦畔や転作牧草等のイネ科植物が発生源となるため、水稻出穂の15～10日前までに地域一斉に草刈りを実施しましょう。
- イ 水田内の雑草も増殖源となるため、水田内にノビエ・ホタルイ・シズイ等が多発している圃場では水田内の除草に努めてください。



図2 シズイの花穂とアカスジカ  
スミカメの成虫



図3 畦畔雑草が伸びている状態  
(草刈は地域一斉に行いましょう)

## 6 直播栽培の本田管理

### (1) 直播栽培の生育期管理のポイント

直播栽培は、移植に比べて生育量が小さくても茎数過剰になりがちです。

しかし、今年は苗立ち本数が少ない圃場もあり、6月上中旬の低温少照の影響もあって生育がやや遅れている圃場もあります。圃場を良く確認し、目標となる茎数(株あたり概ね20~30本)に達したら、直ちに「中干し」を行いましょ。

現在、直播栽培の多くが鉄コーティング湛水直播であり、表面播種であるため倒伏しやすい、という欠点があります。このため直播栽培では株支持力および地耐力を高める中干しの実施は特に有効です。

### (2) 病虫害防除

茎葉散布による防除が基本となります。散布する薬剤の選択は、岩手県農作物病虫害・雑草防除指針(移植栽培)を参考としますが、飼料用米や稲発酵粗飼料(稲WC S)では農薬の使用に制限がありますので、農業改良普及センター等に確認のうえ使用してください。

#### ア いもち病防除

##### (ア) 葉いもち

7月20日頃(初発が早い場合や多発年は7月15日頃)から本田を巡回し、発生がみられたら直ちに茎葉散布を行います。

##### (イ) 穂いもち

予防粒剤の水面施用(出穂20~10日前頃)または出穂直前と穂揃い期の2回の茎葉散布を基本とします。

#### イ イネツトムシ

飛来性の害虫で、本県での発生は例年少ないものの、生育後半に葉色が濃い場合は、大きな被害を受ける場合があります。圃場観察を十分に行い注意しましょう。

#### ウ 斑点米カメムシ類

移植栽培と同様に防除しましょう。

### (3) 追肥

追肥の要否は、移植栽培に準じて判断します。主食用であれば、『「ひとめぼれ」の鉄コーティング湛水直播による良質米安定生産のための生育指標と栽培法(平成28年度岩手県農業研究センター試験研究成果書)』を参照してください。飼料用米についても岩手県農業研究センター試験研究成果が示されておりますので、参照してください。

鉄コーティング湛水直播栽培は表面播種のため、移植やカルパーコーティング湛水土中直播に比べて倒伏しやすいので、追肥窒素分量は移植栽培の基準より控えめにして、様子を見ながら加減しましょう。特に耐倒伏性が弱い「ひとめぼれ」「あきたこまち」「いわてっこ」等では注意して下さい。なお、移植栽培に比べて明らかに生育過剰と判断される場合は、倒伏軽減剤の使用も検討しましょう。

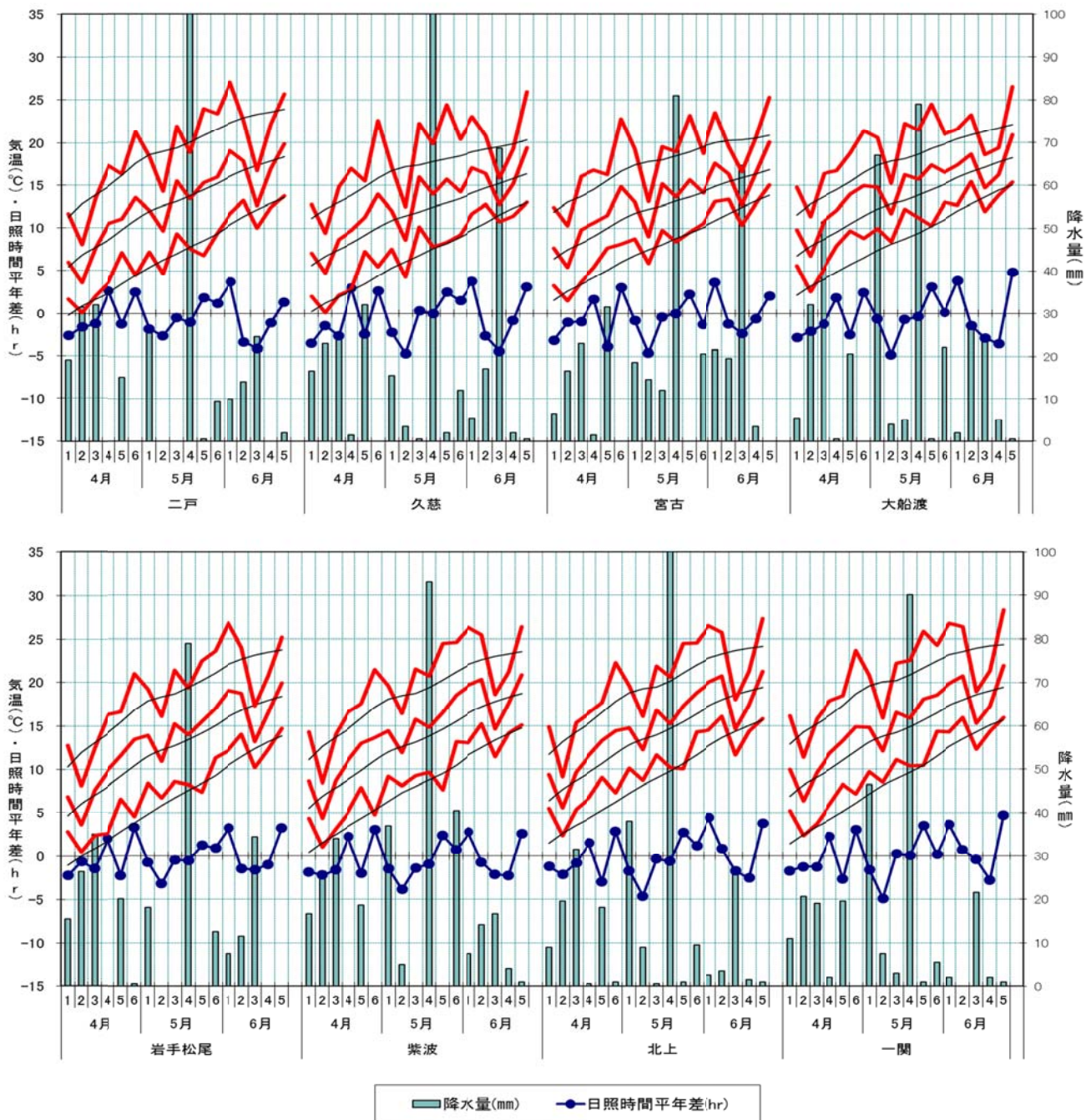


図4 各地の半旬別気象経過図（主なアメダス地点；4月第1半旬～6月第5半旬）

次回の発行予定日は7月26日（木）です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しています。発行年月日を確認のうえ、最新の情報をご利用ください。

中央農業改良普及センター県域普及グループは、地域農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。

## 6月1日～8月31日は 農薬危害防止運動期間です

- 農薬散布時は、近隣住民・周辺環境に配慮しましょう
- 農薬散布準備、作業中・後の事故に注意しましょう
- 農薬は適切に保管・管理しましょう